

## 第4章 練習問題集

この章では、ある囲碁入門書に掲載されている問題集から150題を選らんで出題します。これらの問題は、実際の十九路盤ではなく、極小型の七路盤上の問題として出題されていますので、これらの問題を考えると、囲碁の基本に関する理解が深まることは間違いありません。解答もついていますが、解答をすぐには見ないで、まずは自分の考えで正解と思う手を捜してみてください。

なお、最近では、日本棋院あるいは韓国の棋院からすぐれた問題集（ドリル）が出版されていますので、それらもよろしければご参照ください。

---

この部分、別途PDFで作成しお届けします。

---

[終わりに]

囲碁の道は遠き長き道です。最近、ご他界なされた一流棋士の藤沢秀行さんは「囲碁について神様が100知っているとする自分が分かっていることは3か4くらいにすぎない。」と語ったと伝えられています。現在、日本のほか、中国、台湾、韓国には碁のプロの沢山おられて、日夜研鑽に励んでおられます。しかし、秀行さんのお言葉のように、囲碁が完全にわかっている人はいないということだそうです。コンピュータに囲碁を打たせる試みも、オセロやチェスや将棋と比べると遅れています。ですから、囲碁については、実はわからないことだらけなのだというのが現実なのです。その分からないなりに、何が最善か？を求めて、プロもアマも囲碁を追及しているわけです。いま、入門した皆様は、すぐに強くなることを求める必要はありません。山の頂上は景色がいいようですが、山腹でも、山麓でも、楽しむ景色はあります。いま、囲碁を始めた方には、その場所、その場所の景色を楽しみながら、少しずつ山を登られることを心がけていただきたいと思います。

折角、オール慶応囲碁の会で囲碁に興味をもたれたのですから、何かご質問があれば、オール慶応囲碁の会事務局宛、「入門お世話担当者」気付けでEメールを書いてください。わかることはできるだけお返事したいと考えております。

オール慶応囲碁の会「入門お世話担当」気付け